

特集…相互直通運転による利便性・速達性の向上
「ネットワークを拡充する相模鉄道の取り組み」

東横線・目黒線を介して

多方面への移動を提供する

2023年3月開業が予定される相鉄・東急直通線（整備延長約10km）のうち、日吉―新横浜間（延長約5.8km）は東急電鉄が営業する区間である。

東急電鉄は1964年の営団地下鉄（現・東京メトロ）日比谷線との相直を皮切りに、積極的に他社線との相直を行い、自社路線の利便性を高めて人流を創出してきた。約1年後に予定される相鉄との直通に向けて、期待と戦略を伺う。

文●茶木 環／撮影●織本知之

新幹線駅にダイレクトアクセス

——現在の進捗状況はいかがですか。

岩本 工事は原則として整備主体の鉄道・運輸機構が行っていますが、一部、日吉―新綱島間の東横線・目黒線との接続部や営業線に近接する区間で東急電鉄が受託している工区があります。東横線の高架橋の直下で日々列車を運行しながら新線のトンネルをつくるなど大変なこともあったのですが、躯体工事はほぼ終了し、現在は軌道・電車線敷設等の設備工事の段階に入っています。

また、朝ラッシュ時10〜14本（予定）の直通線運行を実現するため、東横線・目黒線の車両それぞれが相鉄線に乗り入れ可能な改造を行いつつ、一

部車両を新造し、必要な編成数を確保します。現在の目黒線は6両編成です。相鉄線への乗り入れ・輸送力増強の両面から8両編成にする必要があります。既存の車両の改造とともに、8両編成に対応してホーム・上屋の延伸や車庫の改良工事を行っています。

——相鉄・東急直通線が東急電鉄にもたらすメリットは何でしょうか。

岩本 まず新横浜駅という東海道新幹線の駅にダイレクトアクセスできること。当社路線からだと品川駅にアクセスする選択肢もありますが、東横線・目黒線が短絡線の整備により新横浜駅に乗り換えなしでアクセスできることが大きいと思います。

また、当社の路線ネットワークの戦略では、東横線と現在の東京メトロ日

比谷線との相互直通運転を1964年に開始して以降、他社線との相直や複々線化等の輸送力増強により網の目のように路線を拡充し、併せて沿線のまちづくりを行うことで利用者数を伸ばしてきました。

新横浜駅は東海道新幹線のほかJR横浜線、横浜市営地下鉄ブルーラインの3路線が乗り入れ、駅の乗降人員もコロナ禍前では3路線合わせて約27万人と一つのターミナル駅程度の規模があります。沿線内に新たな拠点駅を獲得できることも戦略上、大きいと思っています。

新横浜駅からは相鉄沿線とつながりますから、相鉄グループが取り組んでいる沿線開発のポテンシャルにも期待しています。相鉄沿線から東横線や目

黒線を利用して都心方面へと行き来していたことも当社のメリットになると考えています。

——利用者の選択肢が増えたり、混雑緩和にもつながるのではないですか。

岩本 多方面にアクセスできるということは利用者の選択肢が増えるだけではなく、輸送の分散による混雑緩和や異常時等における代替ルートとしての機能も担うことができます。

渋谷と横浜の2大ターミナルを結ぶ東横線は、他路線と比べて輸送効率が高いのですが、現在、日吉止まりとなっている目黒線を新横浜まで延ばすことで目黒線の輸送効率が改善することも期待しています。利用者には東横線や目黒線を介してさまざまな方面に行けるという利便性の高いサービスを



東急電鉄株式会社 鉄道事業本部
技術戦略部 技術企画課 主査

岩本敏彦

Toshihiko IWAMOTO

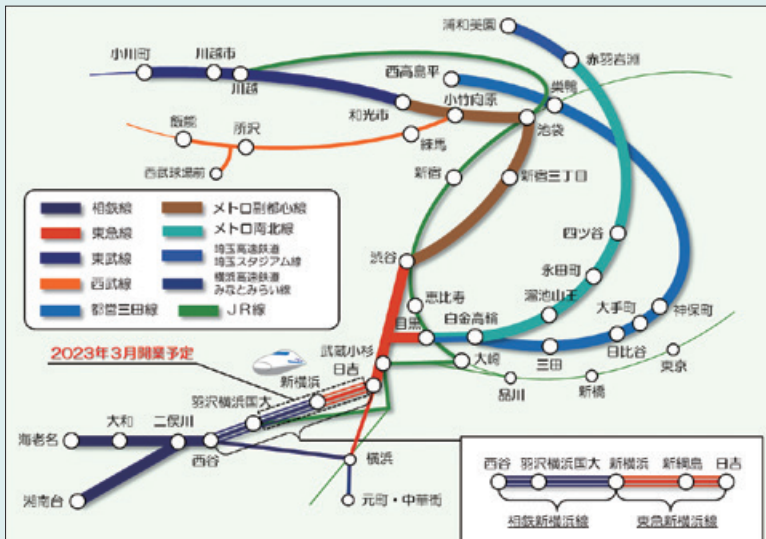
特集：相互直通運転による利便性・速達性の向上

[ネットワークを拡充する相模鉄道の取り組み]



© 鉄道・運輸機構

■広域的な鉄道ネットワークの形成（7社局 14路線）



上／新綱島～日吉駅間（東急電鉄）下／新横浜駅 ※ともに2022年1月現在

相鉄・東急直通線 新綱島駅 完成予想図（鉄道・運輸機構）

提供していきます。

多様な利用ニーズに対応

——輸送障害などの影響を最小限にするためにどのようなことが必要ですか。

岩本 7社局14路線が形成される広大な鉄道ネットワークが形成されますので、まずは各社が自社線内で輸送障害を防止する安全対策をしっかりやっていくことが重要です。当社は2019年度に全駅のホームドアの整備が完了し、輸送障害につながる線路転落も大幅に減少しています。他路線で発生した輸送障害の影響を断ち切るために、新線では新横浜駅に折り返し運転ができる施設を整備していますし、各社の運輸司令所間で連携を取りながら、なるべく迅速に対応していきたいと考えています。

また、ホームに入線する電車の行き先が多方面になり、不慣れなお客さまには分かりにくいこともあるかと思いますが、この直通線は日吉から東横線・目黒線に乗り入れますが、日吉・田園調布間は既に複々線化されており、同一ホームでスムーズな乗り換えができます。行先が違う列車に乗り換えされた場合でも、途中駅での乗り換えが迅速にできます。車内アナウンスでのご案内を丁寧に行って、お客さまの多様なニーズに対応していきたいと思っています。

——新駅を設置する地域との連携はどのように進めていますか。

岩本 当社では新横浜と新綱島に新たな駅を開業しますが、新綱島は新駅の開業に併せて市街地再開発事業と土地区画整理事業が一体的施行で進められており、住宅・商業・文化センター等で構成される再開発ビルのほか、都市計画道路、バス・タクシーベイや広場をつくるなど駅とまちが連携した一体的な整備が行われています。新駅整備とまちづくりとの相乗効果を出しながら事業を進めていきたいと考えています。

「新綱島」の駅名は地域の皆さまにご意見を聞きながら決定したのですが、地域からの期待がかなり大きいことも肌身で感じました。地域の皆さまに親しみを持って使ってもらえるような駅や路線に育てていきたいと思っています。

綱島は古くは温泉のまちであつたり、かつては有名な桃の産地だったりと意外にも思える地域の特徴があり、もう一つの新横浜は、オフィスビル、ホテルが立ち並ぶほか、横浜アリーナや横浜国際総合競技場（日産スタジアム）、ラーメン博物館といった集客施設があるなど、それぞれまちの特徴がありますので、新線開業・新駅開業に合わせて地域ともしっかり連携してPRしていきたいと思っています。

2022年9月2日に東急は創立100周年を迎えますので、この記念すべき2022年度に開業するこの事業をしっかり進めていきたいですね。